

## MICE 振興とカジノ

エンタテインメントビジネス総合研究所

主任研究員 木曾 崇

### MICE とは

**M**eeting : 会議・研修・セミナー

**I**ncentive/Inspection : 報奨旅行・視察

**C**onvention : 大会・学会・国際会議

**E**xhibition/Event : 展示会・文化イベント・スポーツイベント

MICE は休日にその需要が集中してしまいがちなレジャー観光を補完し、閑散期となる平日の観光需要を埋めることで、地域における観光需要の平準化に貢献する。また MICE は観光需要とは異なる部分での地域経済への波及効果も大きいとされ、多くの地域で観光振興策の中核として積極的に誘致が行われている。

### MICE 誘致の 4 要件

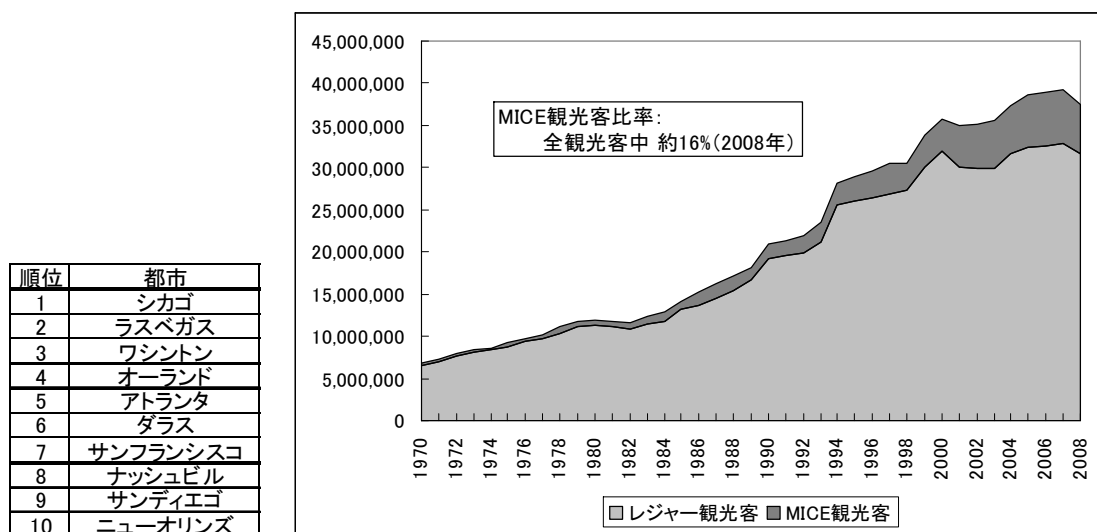
地域に MICE を誘致するためには、少なくとも以下の 4 要件を拡充する必要がある。

1. 必要規模と設備を整えた会議場や展示場の存在  
一定規模の参加者が一同に会することのできる会議場施設や展示場の存在が MICE 誘致の大前提である。また、ここで提供される施設は同時通訳設備や IT 設備など、一定の要件を満たす必要がある。
2. 大量の MICE 顧客を受け入れ可能な宿泊施設の存在  
MICE 観光の特徴は、特定の時期に集中して大量の MICE 参加者が地域を訪れる点にある。中心となる会議場や展示場周辺にそのような大量の参加者を受け入れられるだけの大型宿泊施設が必要となる。
3. アフターコンベンション機能の充実  
アフターコンベンション (アフター MICE) とはイベント日程が終了した後、MICE 参加者が楽しむことが出来る受入れ施設のことである。アフターコンベンション機能の拡充のためには、1) 日中のイベント日程が終了した後の夕刻以降の受入れ施設、2) イベント全工程が終了した後の観光施設の 2 点からの拡充が必要となる。
4. 交通利便性の向上  
交通利便性の向上には大きく 2 つの要素を考える必要がある。1) 全国から MICE 参加者が集まるための大量交通機関 (主に飛行機や新幹線)。2) 地域で会議場、宿泊施設、アフターコンベンション施設間を移動するためのローカル交通 (主に鉄道やタクシー)。

カジノと MICE

カジノ産業と MICE 産業の間には非常に密接な関係がある。年間約 22,500 件の MICE 開催があり、約 590 万人の MICE 顧客を集めるラスベガスは、Travel Industry Association of America の発表する MICE 都市ランキングで、シカゴに続く全米第 2 位のコンベンション都市となっている。

【全米 MICE 都市ランキング(左)とラスベガス目的別観光客数(右)】



出所: Travel Industry Association of America,2005(左)、LVCVA 発表統計を元に EBI まとめ(右)

ラスベガスは全米 MICE 施設の設定規模ランキングのトップ 10 に数えられる MICE 施設が複数存在する唯一の都市であり、特に一度に大量の参加者を集める大規模展示会のホストを得意とする。2007 年に開催された展示会開催規模ランキングのトップ 10 に挙げられるイベントのうち、実に 7 イベントがラスベガスでの開催となっている。

【全米 MICE 施設規模ランキング(左)と展示会開催規模ランキング(右)】

	施設名	都市	広さ(単位: ㎡)
1	McCormick Place	シカゴ	2,700,000
2	Orange County Convention Center	オーランド	2,539,559
3	Las Vegas Convention Center	ラスベガス	2,157,235
4	Georgia World Congress Center	アトランタ	1,673,563
5	New Orleans Morial Convention Center	ニューオーリンズ	1,508,763
6	Sands Expo and Convention Center	ラスベガス	1,326,807
7	Dallas Convention Center	ダラス	1,116,307
8	The Moscone Center	サンフランシスコ	1,037,988
9	Phoenix Convention Center	フェニックス	1,029,088
10	George R. Brown Convention Center	ヒューストン	1,006,958

	展示会名	都市
1	International CES	ラスベガス
2	ICUEE 2007	ルイビル
3	The WSA Show 2月	ラスベガス
4	MAGIC Marketplace 8月	ラスベガス
5	The WSA Show 7月	ラスベガス
6	MAGIC Marketplace 2月	ラスベガス
7	SEMA Show	ラスベガス
8	ICSC Spring Convention, Leasing Mall & Trade Expo	ラスベガス
9	The Intl. Builders' Show	オーランド
10	NBAA Annual Meeting & Convention	アトランタ


出所: <http://www.event.com>(左)、Trade Show Executive 発表資料を元に EBI まとめ(右)

カジノと MICE の密なる関係

理由 1: カジノは MICE の主催者、および参加者にとって非常に利便性の高い施設である。

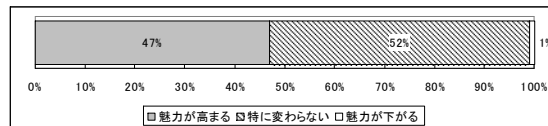
1. 大規模な会議・展示場施設の存在
2. 大規模宿泊施設の存在
3. 充実したアフターコンベンション機能
4. 上記が複合施設化されているため、ローカル交通に対する懸念は不要

具体例) The Marina Bay Sands

	総開発投資額 : 約 3,700 億円(初期発表値)
	ホテル施設 : 2,500 室
	展示・会議施設 : 4.1 万㎡ (展示場) / 会議施設 (4.8 万平米) アジア最大の 8,000 人収容無支柱ボールルームなど
	レジャー施設 : 2,000 席のシアター2 施設 / ビデオゲームなどのエンターテインメントゾーン (3,700 平米) / 10,000 人収容の野外イベント場 / レオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術館 (2 万平米) / ホテルタワーを跨ぐ空中展望公園 (1 ヘクタール) / ショッピングモール (11.7 万平米) 各種有名レストラン / 半水中トンネルで繋がる水上パビリオン 2 施設など

【MICE 参加者による評価】

ラスベガスで MICE を開催するとイベントの魅力は上がる?下がる?

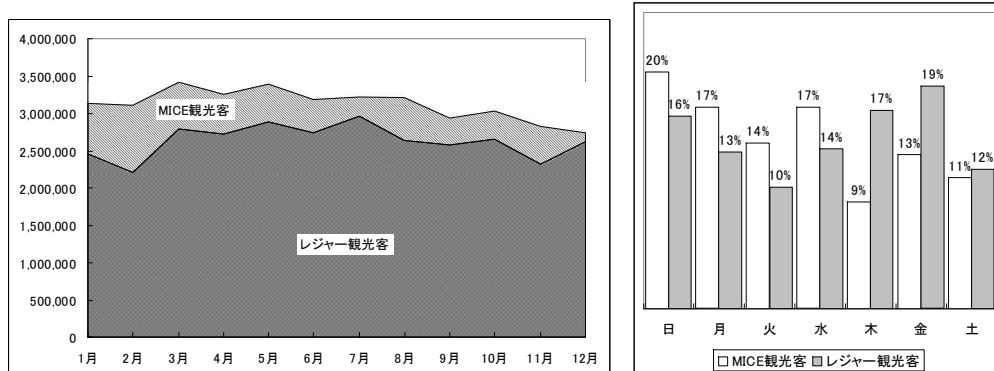


出所: LVCVA 発表統計を元に EBI まとめ

理由 2: カジノにとっても MICE は非常に有用な事業である。

各事業者は、レジャー観光需要の繁閑差を MICE 観光需要で埋める事で需要の平準化を行なっている。宿泊、料飲、ゲーミングと多面的な収益を期待できるカジノ事業者は、他の会議・展示施設事業者よりも有利な条件で MICE 誘致を行なうことができる。

【ラスベガスの月別観光客数(左)と曜日別の観光客到着比率(右)】



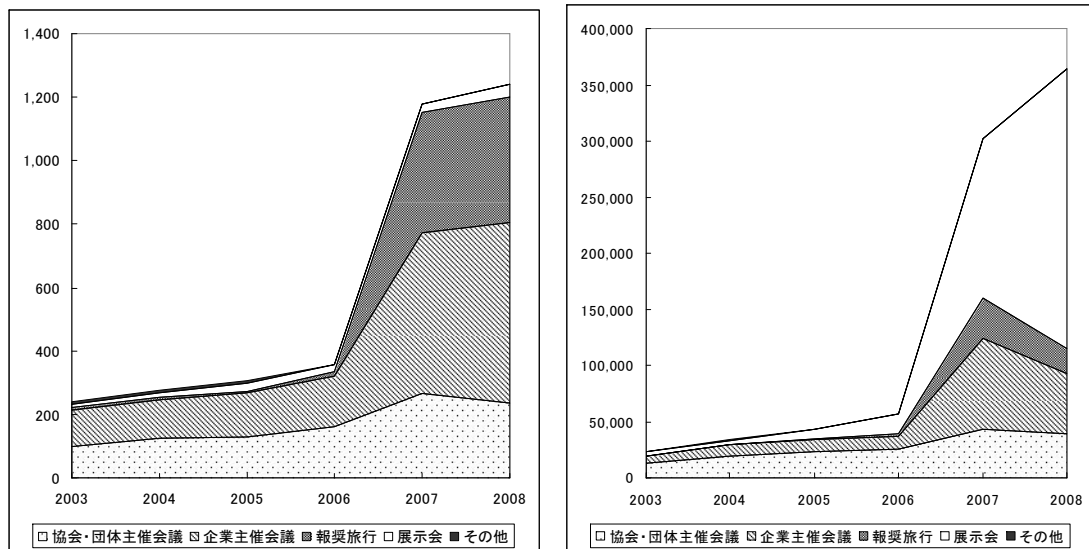
出所: LVCVA 発表統計を元に EBI まとめ

→このような互恵関係によって、多くのカジノ都市が MICE 都市としても成長している。

## アジア圏におけるカジノ導入と MICE 誘致

アジア圏では 2007 年にマカオが大規模 MICE 施設を併設した複合カジノ施設を開業。同地域での MICE 事業が開催数で約 3 倍、参加者人数にして約 5 倍以上の急成長を遂げた(うち半数が国際 MICE 事業)。2010 年にはシンガポールにおいて同様に MICE 誘致を狙った複合カジノリゾート(IR)のオープンも予定されており、今後アジア圏における厳しい MICE 獲得競争が予想される。

【マカオの MICE 開催数 (左) と MICE 参加者数 (右)】



出所：Macau Government Tourist Office

## まとめ：

1. MICE の誘致には、1) 会議・展示場の存在、2) 大規模宿泊施設の存在、3) アフターコンベンションの充実、4) 交通利便性の 4 要素が必要となる。
2. カジノと MICE 事業は密接な関係にあり、世界のカジノ都市の多くは同時に MICE 都市でもある。
3. その理由は、カジノ施設が上記の MICE 誘致に必要な 4 要素を満たしているのと同時に、カジノ事業者自身がそれを戦略上の重点課題として積極的に MICE 誘致を行なっているからである。
4. アジア圏においてもすでにカジノを有効に利用して MICE 振興を行なおうとする国や地域が登場しており、今後、その誘致を巡って厳しい国際競争が行なわれることが予想される。
5. 厳しい競争が予想されるアジア圏での MICE 獲得競争に、我が国はどのように対抗するのか? カジノ導入の可能性も含めた広範な論議が必要である。

【著者プロフィール】

木曾 崇

㈱エンタテインメントビジネス総合研究所 ゲームングビジネス事業部長／主任研究員

早稲田大学アミューズメント総合研究所 カジノ産業研究会 研究員

ネバダ大学ラスベガス校ホテル経営学部を主席卒業（カジノ経営学専攻）。米国ラスベガス Four Queens Hotel & Casinos でのカジノ事業部長付き経営研修生を経て、カジノ事業者大手 Caesars Entertainment 社（現 Harrah's Entertainment 社）に入社。同社会計監査部にて監査人業務を勤めた後、帰国。2004年、㈱エンタテインメントビジネス総合研究所に入社。主任研究員としてカジノの専門調査チームを立ち上げ、現在では国内外の各種カジノ関連プロジェクトに携わる。2005年より早稲田大学アミューズメント総合研究所カジノ産業研究会研究員として一部出向、同研究所で国内カジノ市場の予測プログラム「W-K シミュレータ」を共同開発。

エンタテインメントビジネス総合研究所は、日本で最も早くからカジノ研究に取り組むエンタテインメント業界の専門シンクタンクです。1993年、弊社はそのグループ基金によりネバダ大学内に「国際ゲーミング研究所（IGI）」の設立を支援、世界でも珍しいカジノ専門の研究所として業界内外より大きな評価を頂いています。国際ゲーミング研究所では、世界で初めてとなるカジノ経営学を含むホスピタリティ経営に関する博士号取得講座を運営。弊社と共同でカジノ、ゲーミング業界に直面する様々な問題と状況に焦点をあてその解決法を探るほか、ゲーミング産業のソフト、ハード両面における研究支援を行っています。また、現在ではカジノに関する基礎調査、実地調査など各種クライアント様からのご要望に応じた、個別の調査研究も承っております。

各種お問合せは下記連絡先まで。

〒110-0015 東京都台東区東上野 3-24-3

Tel: 03-5688-4751 Fax: 03-5688-5353 E-mail: kiso@eb-i.jp